

枕崎市地域公共交通活性化協議会 令和 8 年度第 3 回会議 議事要旨

令和 8 年 8 月 27 日（木）13 時 30 分

枕崎市水産センター会議室

【出席者】 委員 30 名中 21 名の出席あり

【内 容】

1 開会

2 会長あいさつ

枕崎市長よりあいさつ

3 協議

(1)枕崎市地域公共交通計画策定支援業務 業務計画書について

委員	乗降調査について、東大川線は「なのはな館」まで調査するのか。
事務局	東大川までの乗り込み調査を予定している。
委員	ヒアリングの調査内容は事前に委員へ提示・意見聴取できるか。 また、関係者ヒアリングで「交通事業者・医療機関等」とあるが、それ以外にどのような分野の施設を想定しているか。
受託事業者	内容は事務局と調整する。対象施設については、医療機関のほか「商業機能」および「観光機能」を備えた拠点施設を想定しており、両方を兼ね備える代表例として「お魚センター」などへのヒアリングを予定している。
委員	移動傾向の分析において、有料の「人流データ」を活用することは検討しているか。
受託事業者	検討しデータ提供事業者とも協議したが、枕崎市においては都市部と比べ主要な目的地がある程度決まっており、年代別に区切った場合に十分なサンプル数が得られないと判断した。そのため、今回はアンケートやヒアリング結果を中心に分析を進める。
委員	学校再編を踏まえたネットワーク検討とあるが、今年度中に計画へ書き込めるような一定の方向性が示される状況にあるのか。
委員 (市担当課長)	現在、望ましい学校づくり審議会を開催しており、今年度中に「中学校のあり方」について答申を受ける予定である。仮に統合を進めるべきとの答申が出ても、その後 3～5 年程度の期間を要する例もあり、すぐに統合することはないが、一定の方向性は示される見込みである。

委員	交通体系の検討において、将来の人口分布や関係施設の統廃合予定などの情報も加味するべきではないか。
受託事業者	将来の人口分布については基本情報として整理する。施設の統廃合等の情報については想定が漏れていたため、市と調整しながら情報整理に含めたい。
委員	第5回協議会で提示される計画素案はボリュームがあるため、目を通す時間を確保できるよう早めに各委員へ提示してほしい。
事務局	年末もしくは年始の段階で、その時点での素案をお示しできるよう準備を進める。
委員	・乗降数だけでなく、どこで乗りどこで降りたか（OD：起点・終点）をきちんと取るべき。 ・JR 枕崎駅での乗降数のカウントはしないのか。 ・ヒアリング調査については商業・観光施設に加え、商工会や観光協会等も対象にすべき。 ・民生委員へはアンケートよりもヒアリングの方がよいのではないかな。 ・移動動向の分析は市民に限定せず、来訪者についても整理・分析すべき。
受託事業者	・乗客が多い場合に調査員が全件把握するのは困難な面もあるが、OD 情報は非常に重要であるため、特定の個人がどこで乗り降りしたか把握できる仕組みを検討する。 ・現段階の交通施策検討において JR の乗降データが必須となる事業を想定していないため予定していないが、必要性が生じれば追加カウントを検討する。 ・ヒアリング調査については、商工会や観光関連施設についても対象に追加する。 ・民生委員への調査については、網羅的な意見収集のための「アンケート」を実施しつつ、生の声を聞くための「ヒアリング」も数名選定して実施する方向で調整する。 ・ご指摘の通り、来訪者の移動傾向も含めて整理する。
委員	路線バス等のヒアリングは同一の質問票を使うのか、それとも各サービスに合わせるのか。また、路線バスの車内ヒアリングは乗降が多く時間が限られるため、サンプル数を確保するために調査日数（現在平日2日・土日1日）を増やした方がよいのではないかな。
受託事業者	各サービスに合わせた設問を用意する。一問一答ではなく対話形式で行い、自然な会話の中から移動状況や改善の要望を引き出す手

	法をイメージしている。(※日数等の具体的な調整については事務局・事業者にて引き続き精査)
--	--

(2)枕崎市地域公共交通計画策定に係る市民アンケート調査について

委員	交通弱者である高齢者に郵送しても回答が難しい場合が多い。一番利用する高齢者の声を取りこぼさないよう、民生委員等を通じて手取り足取り回答をサポートできる仕組みを作れないか。
受託事業者	ご指摘の通り、回答が困難な方ほど移動に課題を抱えていることが多い。そのため、民生委員を対象とした調査を設定しており、民生委員を介してそうした方々の状況把握を進めていく。
委員	問 34 の決済方法の質問が分かりにくい。また、問 8・11・16 の選択肢に「コミュニティバス」があるが何を想定しているのか。
受託事業者	問 34 は分かりやすく修正する。コミュニティバスの選択肢は誤りであるため削除する。
委員	目的を「通勤・通学」「買い物」「通院」に絞っているが、趣味や習い事などその他の移動を確認しない理由は何か。また、「外出を諦めた理由（問 29）」は短期的な対策を打つ上で重要なので、具体的な理由を聞くべきではないか。
受託事業者	設問数を絞るため、過去の調査経験から大半を占める 3 つの目的に限定していた。外出を諦めた理由については、より良い改善につなげるため、理由を問う設問を追加する。
委員	・スマホの保有・利用状況を聞いてから利用しているサービスについて（問 33）を聞くべき。 ・乗合タクシーの利用目的（問 22）の選択肢「JR や路線バスへの乗り継ぎ」は、実態把握のため JR と路線バスを分けるべき。 ・問 32 でドライバーの意向を聞くなら、利用意向も聞いた方がよい。ただし、導入を強く推し進めるような説明は避け、交通手段の選択はあくまで協議会が決めるものであると誤解のないようにしてほしい。
受託事業者	・スマホの利用についての質問、乗合タクシーの利用目的の選択肢については指摘の通り修正する。 ・ライドシェアについて利用意向を聞くことで「サービスが確実に提供される」と住民に誤解を与える恐れがあるため、設問の追加については事務局と協議の上で決定したい。

(3)その他

事務局	・ JR 指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議における実証事業について説明と利用について呼びかけ ・ 空港バスリレー運行事業の 8 月実績について説明
委員	地区の公民館として交通弱者を把握し、通院の声かけや送迎の手助けなどを行う体制（昔ながらの助け合い）を作りたい。市からそうした取り組みを行う地区（公民館）へポイント等のインセンティブを付与し、モデル的に実験できないか。
会長	昔からの助け合いの文化は非常に貴重であり、幸せな公民館づくりを実現する上で尊重したい。一方で法的な縛り（道路運送法等）があるため、市からの直接的なインセンティブ付与は難しい面がある。ルール作りを含め、本協議会の目的の一つとして今後の参考にさせていただきたい。
委員	他自治体ではバス・タクシー運転手の採用支援金や給食補助等の支援策が出始めているが、枕崎市でのお考えはあるか。
事務局	運転手確保は重要な課題であり、次期計画においても対策として考える必要がある。近隣自治体との連携も踏まえ、本市として取れる対応について今後検討していきたい。

4 その他

なし

5 閉会